

【樹木の部屋】

ムベ（アケビ科ムベ属 *Stauntonia hexaphylla*）

和名：ムベ（郁子） **別名**：トキワアケビ（常葉通草）、ヤモッカ（野木瓜）

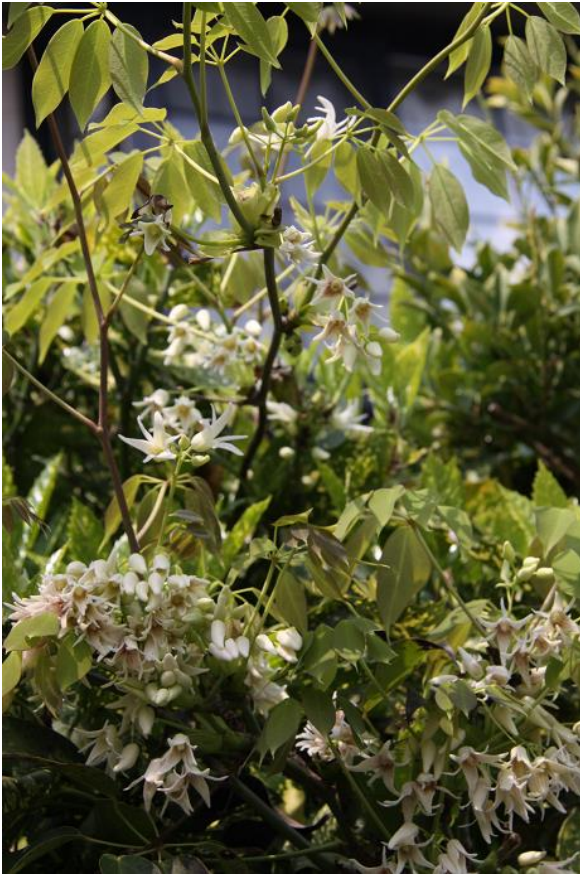
英名：Japanese staunton-vine

キンポウゲ目 蔓性低木

原産地：日本、朝鮮半島

花言葉：愛嬌

花の色：白



← 写真-1 ムベ

撮影日：2019年04月19日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん

▽ 写真-2 ムベの花

撮影日：2019年04月19日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん



← 写真-3 ムベの葉と蕾

撮影日：2019年04月19日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん



→ 写真-4 ムベの枝

撮影日：2019 年 04 月 19 日

撮影場所：大和郡山市

郊外にて

撮影者：M さん



大和郡山市郊外の民家で見かけました。フェンスに這わせて植えられていました。普段、よく通る道路脇ですが、ここにこんな花が・・・白い花に引き寄せられ近寄って見るとムベの花でした。「ムベ」は、果実を食した天智天皇が発した「むべなるかな」という一言に由来するそうです。

樹皮は暗緑色と灰白色のまだら模様になり、若い枝は無毛で、暗緑色または暗紫褐色で雌雄同株です。

葉は、長い柄のある 3～7 枚の小葉からなる掌状複葉で互生します。小葉は楕円形で先端は短く尖り、基部はややまるく全縁。革質で、表面は光沢があります。裏面には、特徴的な網状の葉脈を見ることが出来ます

花期は 4～5 月。花は葉腋から短い総状花序をだし、花冠は薄い黄色で細長く、剥いたバナナの皮のような淡黄色の花を 3～7 個下向きにつけます。内面には単紅紫色の筋があり、雌雄異花です。花には花弁はなく、花弁状の萼片が 6 個、2 列に並び、外側の 3 個は披針形で内側の 3 個は線形。雄花の外側の萼片は内側の萼片より短く、雌花は外側の萼片のほうが内側の萼片より長い。

果実は、熟すと赤紫色になりますが、アケビのように開裂しません。

大昔は貴重な山の幸であり、日本では伝統的に果樹として重んじられ、砂糖が輸入される前は代表的な甘味料として重宝され、朝廷に献上されることもあったそうです。種ごと頬張ってわずかな果肉と果汁をいただくのが一般的な食べ方だそうです。

日当たりと水はけの良い場所を好みます。多くは自家不結実性なので、二株以上を一緒に植えるのが手っ取り早く、フェンスに這わせたり、棚を作って管理するのが一般的な方法のようです。新芽と果実は食用となるそうで、茎や根は野木瓜(やもっか)という生薬で利尿剤となるそうです。

葉は幼木の時は 3 枚、その後 5 枚、実が成るころには 7 枚に」なるので「七五三の縁起木」ともされたそうです。また、今では死語に近くなっていますが、「なるほどもっともであるなあ」というときに表現する「宜（うべ・むべ）なるかな」は、このムベに由来するそうです。